

単元名:自分の知らない世界の扉を開こう ～異文化に触れ、留学生の受入準備をしよう～		
氏名:田中 翔一郎	学校名:大阪府立豊中高等学校 能勢分校	
担当教科:国語	実践教科:特別活動	
時間数:4時間	対象学年:1年	人数:22人
使用教材:自主教材		

【実施概要】

【1】単元の目標		
<p>(1)異文化に触れ、日本との違いを理解し、異文化を楽しむ。 (2)海外での生活をイメージし、その大変さや苦労を理解し、留学生の心情を慮る気持ちを養う。 (3)夢や目標を考えるきっかけを与える。</p>		
【2】単元の評価規準	(ア) 知識・技能	異文化に触れ、日本と海外の文化の違いを理解する。留学生の国の文化や言葉を学び、理解する。
	(イ) 思考・判断・表現	ペルーに移住した人たちの話から異国の地での生活が大変なことを理解し、留学生の気持ちを慮れるようになる。
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	積極的に留学生の国の文化や言葉を調べ、留学生と関わろうとする。
【3】単元設定の理由	<p>〈単元設定の理由〉 本校は、2005年より20年間毎年さまざまな国から留学生を受け入れている学校である。しかしこの数年、教員の入れ替わりにより留学生の受け入れ態勢がしっかりとできていない状態が続いていた。留学生を受け入れてはいるものの、受け入れ学年に事前学習などができておらず、何の用意もなく留学生を受け入れている状況であった。それでも留学生の受け入れは問題なく行われていたが、せつかくの機会をより良い時間に、またもっと異文化交流ができるようにしたいと思い、今回の授業を設定した。</p> <p>〈生徒観〉 本校は大阪府の最北端にある全校生徒70人程度の小さな学校である。生徒の半数以上は同じ能勢町内にある中学校から進学してきた生徒であり、地域の学校といったアットホームな雰囲気がある。そのためか、人懐こい生徒が多く和気あいあいとした雰囲気がある。今回ブルガリアからの留学生を受け入れる1年生もクラス全体の雰囲気としては、温かく優しい雰囲気があり、お互いに助け合いができるクラスである。</p> <p>〈教材観〉 本単元では、異国の地に単身で留学に来る生徒に少しでも不安や心配がなくなるように、受け入れ学年である生徒に留学生の国の文化や言葉について調べる時間を設け、留学初日からスムーズに交流ができるように授業を展開していくことを目的とした。また異国の地に行き、実際に生活することの大変さや異文化の違いで戸惑うことなど、今回授業者がペルーでの研修で実際に困ったことやペルーへ移住した日系人の方々の話などを生徒に伝え、クラスの生徒たちが留学生へ寄り添える気持ちを醸成したい。</p> <p>そしてもう一つのテーマとして、自分の知らない世界に触れ、何か夢や目標を見つけてもらえるきっかけとして授業を展開していく。そのために、授業者自身の夢や目標について生徒に語り、何か考えるきっかけとなるよう思いの丈をぶつける。</p>	

〈指導観〉

生徒は、これまでさまざまな場面で海外の文化に触れてくることはあっただろうが、自分事として捉える機会が少なかったと考えられる。そのため今回はより深く異文化についての理解を進めるとともに、海外で実際に生活することの大変さや楽しさなどまで考えさせ、留学生の気持ちに寄り添えるよう指導を行う。

また異文化に触れることで自分の知らない世界を知る楽しさを知り、高校生の間にもいろいろなことに挑戦し、自分の世界を広げられるように指導を行う。

〈設定時に想定された生徒の変容〉

授業者が訪問したペルーや留学生の出身国のブルガリアの文化について学び、異文化に興味を持つことにより、留学生と積極的に交流することが期待される。また、この留学生との交流や異文化について学ぶ機会を通して、自分の将来を考えるきっかけとなることを期待する。

【4】展開計画(全4時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知らない世界の扉を開こう、 夢や目標について考える 異文化に触れる 留学生について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 授業者の夢や目標について紹介 授業者のペルーでの研修についての紹介 留学生についての紹介 留学生の国について調べる 	<ul style="list-style-type: none"> ペルーで撮影した写真 Canva (プレゼンテーションツール) ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> 留学生の受け入れ準備、 留学生の国について学び、交流のきっかけをつくる。 留学生に、自分に何ができるか考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生の国について調べたことを発表し、クラス全体で共有する。 留学生が来た際に、どのようなことができるのか各々で考え、発表する。 留学期間中にメインでサポートするバディを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> 留学生歓迎会、 留学生の登校初日に考えたことを実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生からの自己紹介 クラス全員からの自己紹介 自分たちが考えた留学生にできることを歓迎会を通じて実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート Googleフォーム
4	<ul style="list-style-type: none"> 留学生と交流した振り返り、 留学生と交流した各々の気づきをクラスで共有 	<p>一か月間の留学生の受け入れ期間を経て、生徒たちがどのようなことを学んだり、体験したりしたのかを振り返り、クラス全体で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート Googleフォーム

実践授業の様子

留学生の自己紹介の様子

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (10分)	自身の夢や目標を考えさせる。その後、教員の夢や目標について聞く。 ・世界七大大陸最高峰を見に行くこと ・海外の日本人学校で働くこと	できるだけ具体的な夢や目標を書かせるようにする。 書くことが難しい場合は、高校卒業後の進路についてどう考えているのかなど、書けそうなことを問いかけ一緒に考える。	・ワークシート ・Canva ・ペルーで撮影した写真
展開1 (5分)	夢からのつながりで、今回の教師海外研修に参加した経緯の説明。	夢をかなえるためには、言葉にすること、そして行動することが大切なことを伝える。	・ワークシート ・Canva ・ペルーで撮影した写真
展開2 (15分)	ペルーの紹介。 ペルーに渡った移住者がどのようなことに苦労したのかを考えさせる。	海外に行ったことがあるか聞き、行ったことがあればそこでの経験談を聞く。特に困ったことなどがあれば、クラスに共有してもらう。	
展開3 (15分)	留学生の紹介。 留学生が困らないように、自分たちがどのようなことができるのかを考えさせる。	ペルーへの移住者が苦労したことが、留学生も困る事かもしれないと考えさせたうえで、自分たちに何ができるのかを考えさせる。	
まとめ (5分)	留学生を受け入れるため、留学生の出身国を知るために、宿題を出題する。移住者や留学生など夢を持って行動していること。同じように夢や目標を持つため、高校の間にいろんなアクションを起こすように伝える。	自身が夢や目標を持つようになったきっかけなどを話す。そのうえで、何か見つけられるようなアクションを高校生の中に起こすように生徒に伝える。またそのようなきっかけ作りをしていることを伝える。	

【授業実践の様子】

①授業者が自分の夢について話している様子



②生徒同士で意見をシェアしている様子



③生徒が記入したワークシート

Question. 2 ペルー渡航した人々は、どんなことを苦労したと思いますか？

- 言葉が通じない
- 日本とペルーの自然や文化がかわる
- 環境がかわる
- 行事をするにも、言葉が通じないので探さないと

Question. 3

- ブルガリア語や英語を学ぶ(必要最低限)
- 楽しい空気感を作る
- 講師や日本人の助けをする
- 相手の文化にフル理解しておく
- 日本の文化も教える

Question. 4 留学生が困るって何が？ (ペルー側)

言語: Enara Anapa! → ありがとう (ペルー側)
 Aobro yifo → いただきます (ペルー側)
 Ppashho Mue → いただきます (ペルー側)

料理: 野菜 → 野菜は好きだけどペルー料理は好き
 肉 → 肉は好きだけどペルー料理は好き
 揚げ物 → 揚げ物は好きだけどペルー料理は好き

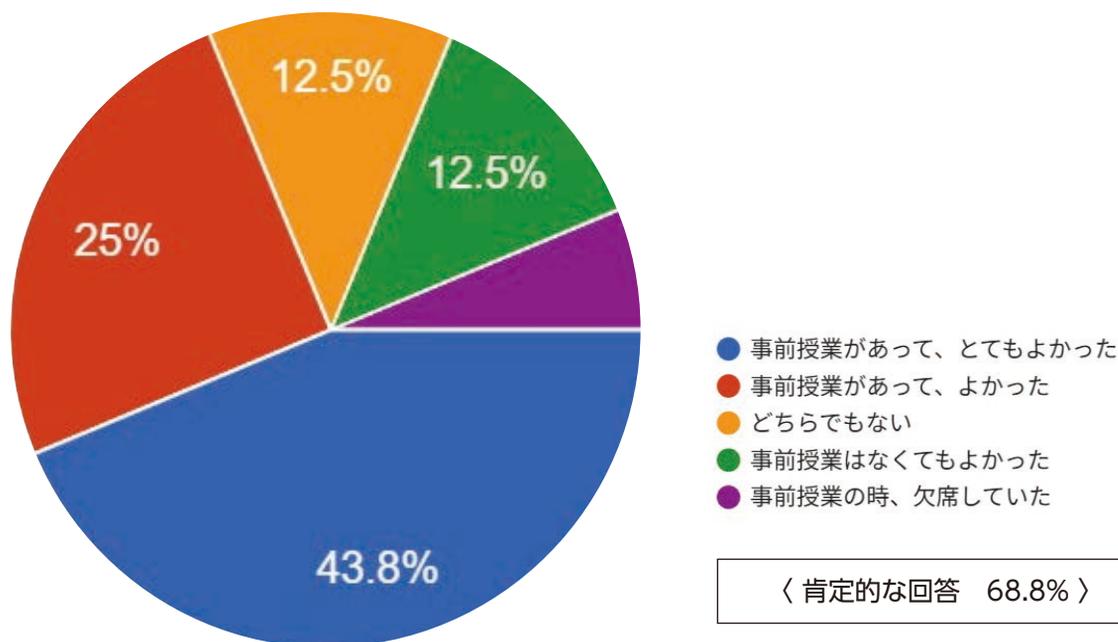
【6】本時の振り返り

今回授業を担当したクラスで授業を受け持ったことがなかったので、どんな反応が返ってくるか正直不安なところがあったが、授業者が想定していたより生徒たちの反応はよく、みな授業に集中して取り組んでくれていた。また海外に対する興味関心も大きく、留学生が来ることを伝えるととても喜んでいて。そのため、「自分たちが留学生のために何ができるのか」という問いを考えると、異国の地に一人でやってくる留学生の気持ちに寄り添った内容をしっかりと考えることができていたと感じられた。

また授業の内容については、授業者がペルーで見聞きしてきたことを写真や動画を交え、もっと生徒たちが異文化に触れる時間を設け、生徒たちの興味関心を揺さぶりたいかった。全体の授業時数の関係で、そのことは叶わなかったため、次年度以降の課題としたい。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

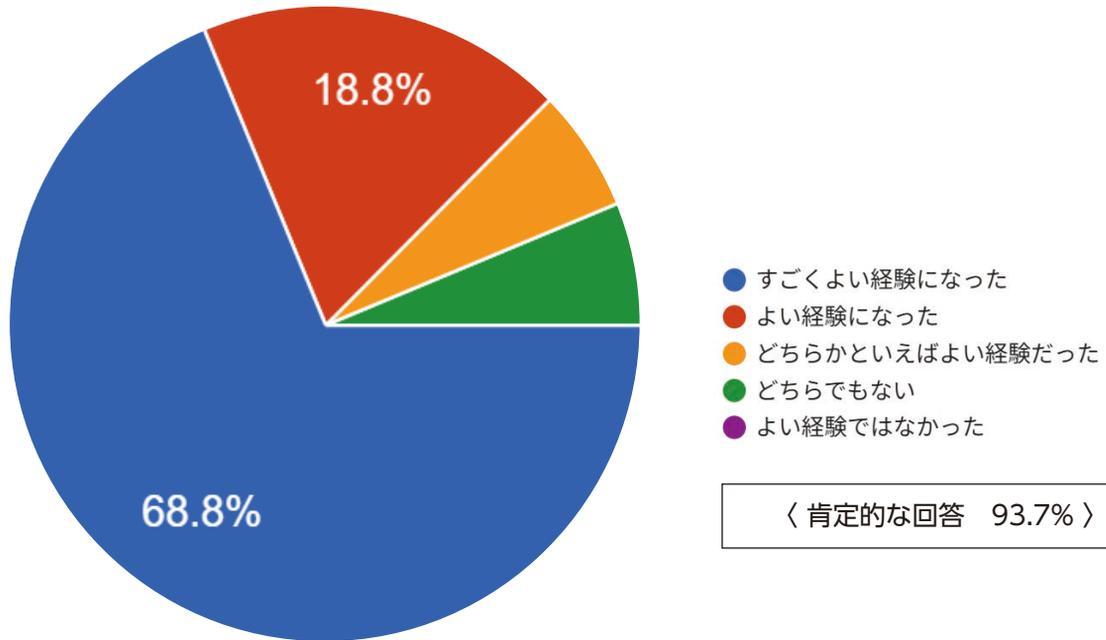
留学生が来る前の事前授業は、あったほうがよかったですか？



①事前授業についての生徒コメント

- ・留学生に会う前に相手の国について知っておけば、もっと深く交流ができるようになるので、事前学習があったよかった。また事前学習がなく留学生がクラスに来ていたら、ド緊張してうまく話すことができなかつたと思う。
- ・自分が外国に一人でいったらめっちゃ不安になるだろうと思った。料理が口に合わなかつたり、言葉もうまく伝わらないところでどうやって助けを求めたりと想像するととても大変なことだと思った。だから留学生が来たらそんな気持ちにならないように一緒に授業や文化祭を楽しめるようにサポートしたいと思った。
- ・ブルガリアの文化などを自分で調べて、留学生がきたときにブルガリア語でお出迎えすることもできた。それにブルガリアのことをいろいろ調べたので、話す話題も多くなってうまくコミュニケーションもとれた。
- ・外国のことについてほとんど知らなかつたので、ペルーに日系人学校があり、そこで日本の文化が教えられていることについて知れて少しペルーに親近感を持ちました。ブルガリアのことについても知らないことだらけだったので、留学生にもっといろいろ教えてもらおうと思います。

留学生との交流は、いい経験になった(楽しかった)と思いますか?



②留学生と交流して学んだ・経験したことについての生徒コメント

- ・ブルガリアの文化や言葉についていろんなことを教えてもらいました。ブルガリアにも日本と同様に早口言葉があったり、紅白の毛糸で編んだミサンガのようなものを3月1日につける文化があったり、同じような文化や違う文化があったりといういろんなことを知れた。
- ・休みの日に一緒にでかけ温泉に行ったんですが、ブルガリアでは温泉などの大衆浴場では、水着で入ることを教えてもらい文化の違いを感じました。またお酒を飲める年齢も日本と違いびっくりした。
(※ブルガリアは今回の留学生の出身国である。)

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- 単元後の振り返りプリントに、生徒の変容がみられる回答があるため、一部抜粋して紹介する。
- ・留学生が来る前はもっと文化の違いを感じていたが、実際接してみると言葉は違いますが、日本の高校生もブルガリアの高校生も大きな違いはなく新しい友達として接することができ、外国の人に対する壁、偏見というのがなくなりました。
 - ・日本では有名なマンガが、他の国ではよくない表現がされているために見ることができないことを知り、文化の違いがこんなところに現れるんだと実際に発見できよい経験になった。他にもどんな違いが国によってあるのか興味が湧き、これからも留学生といっぱい話したいと思った。

【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容】

(授業前)

海外への興味や留学生との交流について一定数以上は興味を示しているが、実際話すことに少しためらいやハードルがあるように感じられた。またどんなことを話せばいいのかわからない、全く興味がない、苦手であるといった意見も挙がっていた。

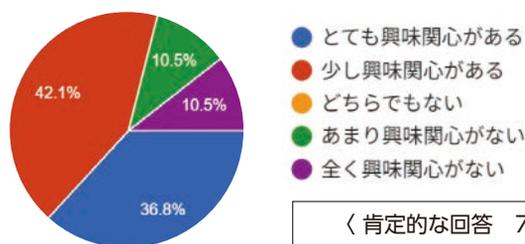
海外への興味関心や海外の人とコミュニケーションをとってみたいですか。



(授業後)

事前学習をすることや実際に留学生と交流をしたことで、約25%ポイント肯定的な回答が増えた。生徒の振り返りの感想を見ても、異文化に実際に触れたことで、文化の違いにおもしろさを感じ興味がわいたという意見が複数みられた。また実際に留学生と話してみたことで海外の人とのコミュニケーションをもっととってみたいという意見も見られた。

海外への興味関心や海外の人とコミュニケーションをとってみたいですか。



【8】自己評価

<p>1. 苦勞した点</p>	<p>海外での生活の苦勞さや大変さといったことを生徒に伝えることが苦勞した点である。授業者自身留学の経験や海外での長期の生活といったことをしたことがなく、今回そのことをペルーで学んできたことやペルーで出会った人の話のみで授業を組み立てたので、うまく伝えられたかがわからない。改善点の部分でも書いたが、ALTや留学経験のある教員に実際に話をしてもらうことを授業前に気づけていればよかったと感じた。</p>
<p>2. 改善点</p>	<p>今回は限られた授業時間での実践であったので、振り返りの時間や生徒の意見を掘り下げる時間をあまり設けることが出来なかった。時間の足りない部分に関しては、課題として生徒へ配付し補ったが、その中の回答にも良い意見が多数あったので、それをもとに生徒発表を実施したり、意見交換をしたりする時間を設けられたなら、より深く異文化や多文化共生の理解につながったと感じる。 また留学生として異国で過ごすことの大変さなどは、本校のALTや留学経験のある教職員に実際に話してもらい、生の声を届けることをすれば、より具体的に生徒へ伝わると感じた。</p>
<p>3. 成果が出た点</p>	<p>今年度は例年よりはるかに留学生と積極的に交流する人数や時間が増えたように感じる。留学生の受け入れ初日の歓迎会の時にも、生徒たちが自発的に留学生の母語を使い挨拶をし、自己紹介までしていた。そのため留学生も初日から不安なくクラスに溶け込んでいたように感じた。 このように事前授業を1時間設けるだけで、コミュニケーションを取るきっかけや相手のことを慮る気持ちを養えると感じた。こういったことが異文化や多文化共生への理解につながるのではないかと改めて授業者自身も再確認することができた。 また一番の成果としては、留学生が帰国する際に、多くの生徒が空港まで見送りに行ったことだ。1か月という短い留学期間だったが、空港まで見送りに行った生徒の多さが、彼らの異文化や多文化共生への理解の深さだと感じた。</p>
<p>4. 備考</p>	<p>今回この教師海外研修に参加し、このような授業実践の機会を設けられたことにJICA関西のスタッフのみなさんをはじめ、ペルーの現地スタッフの方など携わっていただいた多くの方に感謝を申し上げる。 そして自身の夢や目標のためには、何か行動を起こすことが大切だと常日頃生徒に語りかけていたので、自身で生徒にその姿を見せる機会ともなったので良かった。またこれまであまり私自身が国際教育、異文化理解教育などを実践する機会がなかったので、今回のことをきっかけに国際教育、異文化理解教育をどんどん実践していきたいと考える。 最後に、今回の教師海外研修で同じ志を持った教師に出会えたことに感謝である。なかなか自校では国際教育や異文化理解教育に興味を持った仲間がいないので、この研修に参加し、いろいろな意見や情報を共有することができ大変嬉しく感じるとともに、これから自分ももっと頑張っていこうと励みにもなった。</p>

添付資料:

ワークシート1枚(資料1)

(資料1)
2025.09.25 特別授業

Question. 4 留学生の国のところについて調べよう!

『自分の知らない世界の扉を開こう!!』

Question. 1 夢や目標は、ありますか？ある人は具体的に書いてみましょう！

Question. 2 ベルー渡航した人々は、どんなことを苦労したと思いますか？

Question. 3 留学生のために自分たちができることは何がありますか？

感想

1年1組 番名前〔

~メモ~

Canvaスライドデータの一部(資料2)

